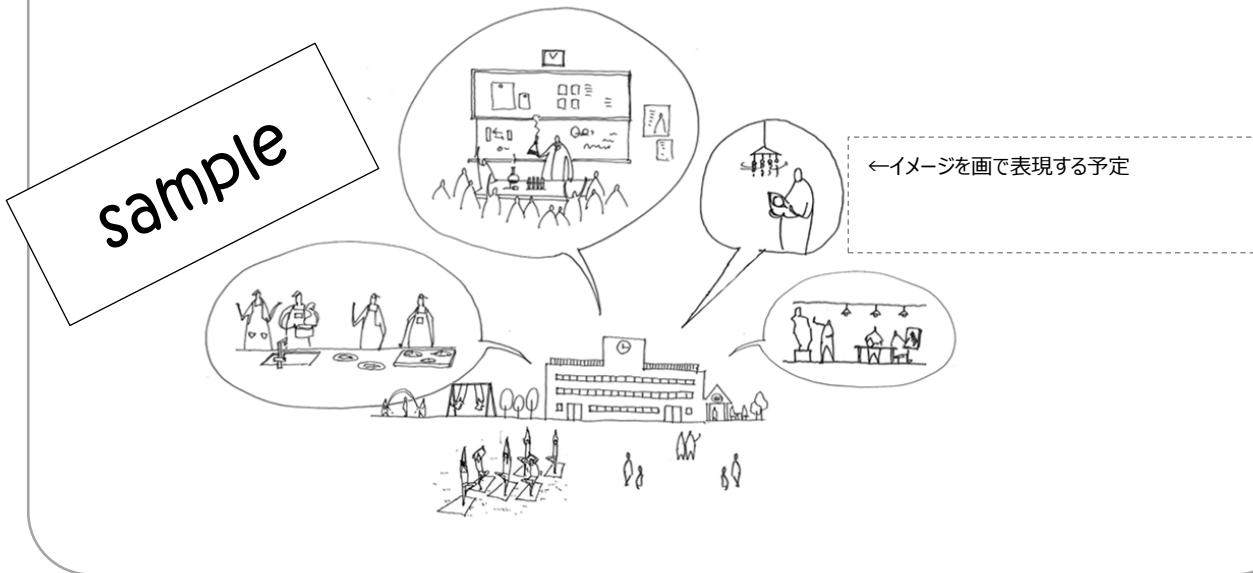


## 学校

### ■ 再編後のイメージ例

[ねらい]

- ・児童・生徒数の減少に併せて適正な学校規模を維持するとともに、**地域の拠点**となり、**多世代で多様な人々の交流や公益的なサービスが展開される場**としていきます。



### こんな取り組みも始まっています

#### ➤ 港区立小中一貫教区校 白金の丘学園(白金の丘小学校・白金の丘中学校)

港区で2校目の中小一貫教育校と  
月に開校。体育館、プール、図書室  
ウンジ、ホール、アリーナ、プール等

合して、中学校の敷地 1.2ha に 2015 年 4  
月用にする他、一般開放を想定する地域ラ

ウンド

sample



## [現状・課題]

- ・公立学校の教育施設として必要不可欠であり、今後も適切に維持していく必要がありますが、高度成長期に整備された大半の施設が一斉に老朽化し建替えの時期を迎えることが見込まれています。建物の長寿命化を図るためにには、築40年前後で大規模な改修が必須であり、計画的に施設の更新を進める必要があります。また、屋外プールや給食室についても老朽化が著しいことから、学校施設の在り方や更新についての抜本的な検討、対応が必要です。
  - ・町田市の人口推計では、今後40年間で、年少人口が約1万9千人減少することが想定されており、建替えや改修にあたっては、適正規模・適正配置の観点を踏まえるとともに、地域の身近な公共施設、地域の拠点となるような学校の実現に向けた検討が課題となります。



## 今回の議題となっている 今後の方向性に関する 総括

## ■ 今後の方向性

児童生徒数の減少に対応した学校の適正規模・適正配置を行うことにより、建物の総量圧縮を図る。また、他機能との複合化・多機能化や建物の長寿命化により多様な人々が交流し活動する場を維持することで、愛着ある地域拠点施設としての醸成を図る。

- ✓ 建物の大規模改修や建替えを計画的に実施する。
  - ✓ 段階的に必要な適正規模・適正配置を実施する。
  - ✓ 教育活動で使用しない教室数の状況や建物の大規模改修・建替えの時期を捉え、周辺の公共施設等の複合化を実施する。
  - ✓ 教室の未利用時間の積極的な活用を図る。

#### 具体的な取り組みの時期

**短期** (2018年～2026年) →最初の9年間



**中期（2027年～2036年）**



長期（2037年～2055年）